

Ⅲ ヒアリング調査からみた経営概況（企業の声）

【現在の景況感】

- 「下降部分と上昇部分が相対しており、景況感は普通」（食料品製造）
- 「業界は縮小している」（印刷業）
- 「業界全体で仕事は増えている」（プラスチック製品）
- 「採算性も向上しており、若干なりとも景況感は好転している」（金属製品）
- 「半導体業界は概ね悪くない。昨年よりも若干良いような感じもする」（電気機械器具）
- 「新たな顧客からの受注が順調に伸び、業務量が増えている」（輸送用機械器具）
- 「受注状況からみて足元は好況である」（一般機械器具）
- 「受注が量的・質的ともにある程度とれており、好況である」（建設業）
- 「好況な部門でも、一部不況で一部悪くないといった状況である」（百貨店）
- 「上がっている感じはしない。ここ数年右肩上がりて来ていたが、横ばいになってきた」（スーパー）
- 「まだ消費のひもは固い。消費が上がってこない」（商店街）
- 「利益は上向きに推移しているが、確保するのに苦労した」（情報サービス業）

【売上・採算】

- 「経費増大分を生産性の向上で補っており、全体として採算性に大きな変化はない」（食料品製造）
- 「単価は下がったが、受注は伸びている。また、単価は下がったが種類が増えている」（印刷業）
- 「医療機器はこの時期に新機種の上上げがあるため、試作の受注が増えている」（プラスチック製品）
- 「取引先の動向により好況（建機）、不況（インフラなど）の企業が分かれている」（銑鉄鋳物）
- 「自動車関連の受注が増えてきているが、他の受注は減少基調であり、全体として変わらない」（金属製品）
- 「建設機械関係では、住宅関係や道路整備関係、オリンピックの施設整備関係で引き合いが増えているようだ」（輸送用機械器具）
- 「受注増加で工場の稼働率が向上し、採算性が良くなった」（一般機械器具）
- 「圏央道開通効果により地域の土木工事の動きが活発化しており、受注は好調」（建設業）
- 「必要なものしか買わない、前倒しして買わない、といった傾向が顕著になっている」（百貨店）
- 「派遣業務がメインなので、従業員数減の影響により売上げが落ちた」（情報サービス業）

【今後の見通し】

- 「新規受注が寄与し、景況感は良い方向へ向かう」（食料品製造）
- 「品質保持のための設備投資を続ける」（印刷業）
- 「新製品の試作や新規取引先からの受注などもあり、好調な受注が見込まれる」（プラスチック製品）
- 「受注が確保できる見込みであり、良い方向に向かう」（金属製品）
- 「現状が変わらないまま続くのでは」（電気機械器具）
- 「アメリカの動きに一時の不透明感はないが、国内の状況はあまりよくない」（輸送用機械器具）
- 「業況は悪くないと感じているものの、見通しは依然として不透明感がある」（一般機械器具）
- 「しばらく現況が継続するとみている」（建設業）
- 「春物が悪いと、夏物のメーカーの作り込みも悪くなるため供給体制が整わない」（百貨店）
- 「悪くなる可能性もあるが、良くなる可能性もないわけではない。海外情勢によるのでは」（スーパー）
- 「6月からお盆までは、行事が無いこともあり消費が落ちる時期」（商店街）
- 「最近の情勢をみると良い方向に向かっていく感じはするものの、まだ何とも言えない」（情報サービス業）